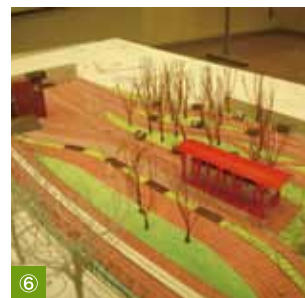




奨 励 賞

碧南レールパーク

調査・計画部門



①大浜口広場。鉄道軌道と同じ幅の2本の白線をデザインの基軸とした。実物大の線路を復元してオブジェとして中央に配置。全体景観を害さないミニマルな施設配置とした ②玉津浦広場。狭い敷地にホームが迫る旧駅の形態をそのまま活用して臨場感を持たせた ③住民意見を取り入れた枕木を使った花壇スペース。住民の花飾り活動の定着を期待している ④信号機は鉄道会社から譲り受けた。夜間はライトアップされて闇の中に幻想的に浮かび上がる ⑤住民ワークショップ ⑥模型製作による計画検討 ⑦隣接道路との高低差はコンクリート壁の情報ボードとした ⑧ホーム壁面にはめ込んだ鑄鉄製の駅名レリーフ

株式会社オオバ

小林高浩・小柳太二・松岡史展・木村晃一・丸山昇・宮原浩史

愛知県立芸術大学 美術学部 教授 水津功
NPO 岡崎まち育てセンター・りた 三矢勝司

名古屋鉄道三河線は碧南駅以東が2004年3月に廃止され、碧南市は市内区間の遊歩道化を決断した。幅10m前後の廃線敷にはバラスト、鉄道柵、3つの駅ホームなどが残されていた。実施設計は発注者、大学教授、専門家、設計コンサルタントからなる推進チームを編成して内外の調整を進めた。沿線全世帯アンケート、住民や小学生とのワークショップを行いプライバシー確保や住戸庭先の花飾りスペース設置を実現した。地場産業の活用にも力を入れてベンチ等の主要施設に鋳物品、舗装にレンガや三州瓦廃材の活用を進めた。

2016年4月に第1期区間が供用し、地域住民に日常的に利用され、週末は多くの市民が繰り出しウォーキングなどを楽しんでいる。鉄道の歴史を身近に感じて暮らすことで、次世代にまちの歴史が引き継がれることを期待している。

作品概要

作品名—— 碧南レールパーク
対象地—— 愛知県碧南市塩浜町地内はじめ
発注—— 碧南市 開発水道部 公園緑地課
事業目的—— 廃止された名古屋鉄道三河線廃線跡の遊歩道化。
事業体制—— 計画・設計業務を株式会社オオバが担当。デザイン監修を愛知県立芸術大学教授の水津功氏が、地域コミュニケーションを名古屋工業大学(当時)の三矢勝司氏が担当。
協働者等—— 石川鑄造株式会社(鑄造製作技術検討)
事業期間—— 基本構想 2008年9月5日～2009年3月2日
実施設計 2013年9月6日～2014年3月26日
供用開始(第1期区間)2016年4月 ※2018年4月全域供用予定
事業規模—— 供用区間約0.5km(全線約2.3km)

作品評

本作品は、鉄道廃線敷きを緑道化し、土地の記憶として残した好例である。地方で、このように廃線敷きを活用している事例は少なく、エリアマネジメントとしても好例である。様々なワークショップの運営やアンケートの実施、遺構や地場産業の活用、多彩で多様な関係者による業務推進体制の構築、などのマネジメント部分は大いに評価すべき点である。

個々のディテールや空間デザインに、工夫や記憶としての配慮が感じられる。今後は本緑道が定着し、線路によって分断されていた街並みがどのように一体化されてゆくか、といった沿線土地利用との関係性や親和性についての拡充が期待され、奨励賞となった。